

ちばっ子「学力向上」総合プラン《評価表》
アクション1 「教師カトップ」チャレンジプラン（「授業力向上」の視点）
◎教師力向上の取組の成果が上がっているといえるか

総括評価 [B]

- A（進展が図られている）
- B（概ね進展が図られている）
- C（一部の進展にとどまっている）

コメント：教師力向上のための人材育成、研修の充実が図られている。

評価の観点		評価コメント	評価
ア	教職員研修の改善が図られ充実したものとなっているか	昨年度の関係者評価やアンケート調査の結果等を生かし、改善を図っており、充実したものとなっている。	a
イ	教師力向上をけん引する人材の育成・発掘ができてきているか	「魅力ある授業づくりの達人」「総合的な学習の時間のコーディネーター」養成等の事業を通して人材の育成・発掘ができてきている。	b
ウ	授業力向上を図る取組の成果が上がっていると言えるか	「若手教員育成推進員」活用事業や「魅力ある授業づくりの達人」、ちば「授業練磨の公開日」によって、多様なニーズに対応した研修機会を提供できている。	a
エ	教師力・授業力向上のための資料提供は十分にできているか	学習指導案の利用を中心として活用されている。学校種に対応した充実が必要である。	b

評価（a：十分満足できる b：概ね満足できる c：不十分である）
 事業担当者による事業ごとの評定

ア	イ	ウ	エ	事業名	評定
○		○		(11)「千葉県教職員研修体系」に基づく新たな研修体系の構築	b
○	○	○		(12)「魅力ある授業づくりの達人」認定事業の推進	b
○	○	○		(13)「若手教員育成推進員」活用事業の推進	a
○		○		(14)ちば「授業練磨の公開日」の実施	a
			○	(15)教師力・授業力アップに係る資料の改定とデータベース化	b
			○	(16)「私の授業レシピ(秘訣・秘伝)」活用事業の推進	b
○	○			(17)「総合的な学習の時間のコーディネーター」養成	b

— コメント —

- 観点別評価及び総括評価ともに、内部評価の結果は妥当である。以下に事業について意見を述べる。
- ・ (11)について：初任者研修、フォローアップ、5年経験者研修、ステップ研修と教員のキャリアステージに応じて研修が設定されていることはよいが、学校現場で必要とされる内容や教員の課題に応じ、連続性・計画性を持った研修の運営に留意する必要がある。また、補助資料のアンケート結果から高校の初任研に課題があるように思われるので、次年度の運営に留意する必要がある。
 - ・ (12)について：教科等によって達人が不在の地域がある。すべての地域、すべての教科等で達人が揃った段階で、評定が「a」になるだろう。
 - ・ (13)について：補助資料を見ると、実際に「育成推進員」を利用したところは少なく、今後利用したいと回答している市町村が多いので事業の評定としては「b」が妥当である。
 - ・ (14)について：授業参観に参加する教員を増やすよう、周知をさらに進めてほしい。
 - ・ (15)について：開始年度が不明となっているので、調査の上、記入して欲しい。
 - ・ (16)について：事業評定「b」で妥当である。
 - ・ (17)について：コーディネーターが、これまで何人養成され、学校で実際にどのような仕事をしているのかが分かるような資料が必要である。

アクション2 「子どもたちの夢・チャレンジ」サポートプラン（子どもたちの学びの視点）

◎子どもたちの学習を充実させるための取組の成果が上がっているか

総括評価 [B]

- A（進展が図られている）
- B（概ね進展が図られている）
- C（一部の進展にとどまっている）

コメント：資料については充実している。有効活用をさらに進める必要がある。

評 価 の 観 点		評 価 コ メ ン ト	評 価
ア	子どもたちのための学習資料は充実しているといえるか	「学びの突破口ガイド」（高学年児童用）、「ちばのやる気」学習ガイドなど内容を工夫し充実したものに整えることができた。	a
イ	子どもたちのために作成した学習資料の活用状況はどうか	周知がまだ不十分な点もあるため、有効な活用方法等をさらに周知していく必要がある。	b
ウ	子どもたちの学習意欲を高める調査・研究・指導がなされているか	千葉サイエンスフェスティバルなど効果的な取組が見られるが、全体として十分であるとはいえない。	b

評価（a：十分満足できる b：概ね満足できる c：不十分である）

事業担当者による事業ごとの評定

ア	イ	ウ	事 業 名	評 定
○	○	○	(21)「ちばっ子チャレンジ100」の活用（小学校）	b
○			(22)「学びの突破口ガイド」の作成	a
○	○	○	(23)「ちばのやる気」学習ガイドの作成・活用（中学校1～3年）	b
		○	(24)「SSH」などの活用による理数教育の充実	a

コメント

- 事業担当者による事業評定、観点別評価及び総括評価ともに、内部評価の結果は妥当である。以下に事業について意見を述べる。
- ・(22)について：今後は、アンケート調査等による活用状況の把握が必要である。活用している教員の経験年数や活用の仕方について状況が分かれば、評価がより正確になるだろう。今年度は、アの観点から評価しているので、事業評定「a」は妥当である。
- ・(23)について：内容が充実し、活用も進んでいると思われる。アンケート調査結果に、活用事例を示してほしいとの要望があるので、活用を更に図るためにも活用の具体例を広く示したらどうか。また、ウェブアップしてある評価問題は昨年度に比べ、採点・集計がしやすくなったが、現場サイドからは、もっと簡便にして欲しいとの要望が強いので、更なる改善が必要である。
- ・(24)について：SSHの取組の内容が素晴らしいので、周辺校や県全体に向けてその取組が広まるよう努めて欲しい。
- ・「ちばっ子チャレンジ100」「学びの突破口ガイド」「ちばのやる気」学習ガイド等の学習資料の学校での活用を一層図るために現場の実践事例を集めるなど、活用をより進める取組を行って欲しい。

アクション3 確かな学びの礎（いしずえ）プラン

（読書活動充実と家庭学習環境づくりの視点）

◎読書活動推進や家庭学習環境づくりのための取組の成果が上がっているか

総括評価 [B]

- A（進展が図られている）
- B（概ね進展が図られている）
- C（一部の進展にとどまっている）

コメント：取組の成果が徐々に認められるようになってきているが、周知等必要である。

評 価 の 観 点		評 価 コ メ ン ト	評 価
ア	学校図書館の充実や読書活動推進のための取組が効果を発揮しているか	学校図書館の充実は進んでいるが、学校種で差が見られる。読書活動の推進は、協力校の取組などもあり充実してきている。	b
イ	家庭学習についての働きかけは十分になされているか	リーフレットの全面改訂、新たな教材の作成などの家庭学習について働きかけを進め、アンケートから課題を明確にできた。	b
ウ	家庭学習を推進するための取組の成果が上がっているか	学習教材やリーフレットの活用は認められ、成果が上がりつつあるが、周知が不十分な状況にある。	b

評価（a：十分満足できる b：概ね満足できる c：不十分である）

事業担当者による事業ごとの評定

ア	イ	ウ	事 業 名	評 定
○			(31) 確かな学びの早道「読書」事業の推進	b
○			(32) 「優良学校図書館」の認定等環境整備事業の推進	b
	○	○	(33) 「家庭学習について考えよう」サイトの広報	b
	○	○	(34) 小学校家庭学習リーフレットの配信	b

コメント

- 事業担当者による事業評定、観点別評価及び総括評価ともに、内部評価の結果は妥当である。以下に事業について意見を述べる。
- ・ (31) について：評定「b」は妥当である。実践協力校の取組をモデル化し、その取組を各市内の学校に広げていくことが必要である。学校図書館の活用をより図るには、管理職の意識改善や市町村教育委員会担当指導主事への働きかけを促すことが必要である。評価の観点「読書推進のための取組が効果を発揮しているか」であるので、読書好きな子が増えたかどうかの他に、読書する時間や冊数が増えたかどうか等定量的に評価する材料があるとよい。
- ・ (32) について：評定「b」は妥当である。「優良学校図書館」の認定を受けている学校が、小学校では80%を超えている。小学校については優良学校図書館の更なる向上を目指し、次のステップを行う必要があるのではないか。中学校については50%に達していない状況のため、更に充実するような取組が必要である。
- ・ (33) と (34) について：サイトのコンテンツは魅力的で使い勝手のよいものになっているが、保護者にさらに周知する必要がある。市町村教育委員会・各学校・保護者へのPRに努めてもらいたい。学校のホームページに家庭学習サイトにリンクを貼ることを奨励しているが有用なコンテンツを周知する上で有効である。(33) と (34) との事業評定「b」は妥当である。

アクション4 興味ワクワク「体験学習」推進プラン（体験学習による意欲向上の視点）

◎子どもたちの学習意欲を高めるための体験学習の取組が充実しているか

総括評価 [A]

- A（進展が図られている）
- B（概ね進展が図られている）
- C（一部の進展にとどまっている）

コメント：体験学習の機会の充実が図られ、学習意欲向上に一定の効果が見られる。

評価の観点		評価コメント	評価
ア	子どもたちの体験学習の機会の充実が図られているか	多様な視点から事業を計画し、体験学習の機会の充実が図られている。	a
イ	学校等で体験学習の重要性についての理解が図られているか	多くの学校で体験学習の重要性が理解されているが、学びの「総合力・体験力」コンテストへの参加者のさらなる増加を図りたい。	b
ウ	体験学習により子どもたちの学習意欲が向上しているといえるか	各事業に取り組んだ子どもたちの様子から、体験学習が充実し、意欲向上が見られる。	a

評価（a：十分満足できる b：概ね満足できる c：不十分である）

事業担当者による事業ごとの評定

ア	イ	ウ	事業名	評定
○	○	○	(41)「小・中・高連携の特別授業」による体験学習の促進	b
○	○	○	(42)「お兄さん、お姉さんと学ぼう」事業の推進	a
○	○	○	(43)学びの「総合力・体験力」コンテストの開催	b
○	○	○	(44)特別非常勤講師配置事業	a

コメント

- 観点別評価及び総括評価ともに、内部評価の結果は妥当である。各事業について次に意見を述べる。
 - ・(41)について：登録教員が昨年度から52名増えている。実施回数も7回増えている。視察したところ、児童生徒の学習意欲を高める事業であることが分かった。今後は、イベント的に実施するだけでなく、小中学校の指導に高校の教員がより関わり教員同士が連携を持ち、計画的に指導を進めていくようにしてはどうか。また、補助資料52-3に交流会の参加者アンケートからは、本事業があまり活用されていないことが伺えるので、更に周知を図る必要がある。事業の評定は「b」でよい。
 - ・(42)について：視察したところ、小・中学生にとっても、高校生にとっても、学習意欲が高まる事業であることが理解できた。10校が実践校に指定されているが、よい事業であるので、実践校を増やす方向で考えてもらいたい。事業の評定は「a」がふさわしい。
 - ・(43)について：応募件数が昨年度よりも3点減少している。補助資料52-3に交流会での参加者アンケートからは、本事業があまり活用されていないことが伺える。教員の意識を向上させる方策を講じてもらいたい。事業の評定は「b」に達していないのではないか。
 - ・(44)について：配置されている学校が293校で多くの学校に配置されていることが分かった。しかし適切に評価するには、講師の教科別の人数や年間指導時間数、児童生徒の感想など更に詳しい資料が必要である。事業の評定は「b」が妥当である。

アクション5 「学力向上」検証プラン（「PDCA」の視点）

(I) 「ちばっ子『学力向上』総合プラン」の評価・検証システムが有効に機能しているか

総括評価 [B]

- A（進展が図られている）
- B（概ね進展が図られている）
- C（一部の進展にとどまっている）

コメント：一部改善の必要性はあるが、概ね事業目的を達成することができている。

評価の観点		評価コメント	評価
ア	各プランの評価が適正になされているか	関係者評価を受けて、評価方法の改善に向けた取組を進めたが、更なる工夫の必要性が認められる。	b
イ	「学力向上交流会」の充実が図られたといえるか	各地区の実態に応じた特色のある実施内容・方法が取られ、「ちばっ子『学力向上』総合プラン」の浸透や教員の指導力向上が図られた。	a
ウ	「学力向上推進委員会」の充実が図られたといえるか	委員による事業の視察など活動が充実した。	a

評価（a：十分満足できる b：概ね満足できる c：不十分である）

事業担当者による事業ごとの評定

ア	イ	ウ	事業名	評定
		○	(51)「学力向上推進委員会」の活性化	a
	○		(52)「学力向上交流会」の実施	a

コメント

- ・事業担当者による事業評定、観点別評価及び総括評価ともに、内部評価の結果は妥当である。
- ・(51)「学力向上推進委員会」と(52)「学力向上交流会」は、かなり充実が図られたといえるが、事務局から評価データや評価方法については、更に改善の余地があるとの認識が示されたので、次年度に向け改善を図って欲しい。
- ・(52)について：補助資料に校種別等の参加者の人数のデータが入っているとよい。高等学校における授業改善も更に進めて欲しい。
- ・評価項目の「ちばっ子『学力向上』総合プラン」の評価・検証システムが有効に機能しているかどうかについては、評価資料の作成状況や内部評価の実施過程等について今年度は画期的に改善されたため、総括評価は「A」が妥当ではないかとの意見があった。

(Ⅱ)「ちばっ子『学力向上』総合プラン」は各学校における児童生徒の学力向上の取組の活性化につながっているといえるか

総括評価 [B]

- A (進展が図られている)
- B (概ね進展が図られている)
- C (一部の進展にとどまっている)

コメント :一部に周知等不十分な部分を残すが、概ね進展が図られている。

評 価 の 観 点		評 価 コ メ ン ト	評 価
ア	各学校等において「ちばっ子『学力向上』総合プラン」の認識が広まったといえるか	学校種により活用している事業の違いがあり、今後とも活用を促す必要はあるが、県教育委員会のホームページの活用状況等は良好であり、全体として活用は進んでいる。	b
イ	各アクションを総括しての達成度はどうか	学校種で重点的に取り組む事業は異なり、事業によっては周知を図り、取組の促進を更に図らなくてはならないものもあるが、アクション全体としての達成度は概ね良好である。	b
ウ	前年度の評価を生かした今年度の改善の成果はどうか	各担当者が評価の改善に向けた意見をもとに事業改善を図ったため、相応の成果が見られた。	a

評価 (a : 十分満足できる b : 概ね満足できる c : 不十分である)

事業担当者による事業ごとの評定

ア	イ	ウ	事 業 名	評 定
○			(52)「学力向上交流会」の実施	b
○			(53)「学力・学習状況」検証事業	b

— コメント —

- ・評価項目である「ちばっ子『学力向上』総合プランは各学校における児童生徒の学力向上の取組の成果の活性化につながっているといえるか」を評価する際に活用できる適切な資料が十分でないと考えられる。
- ・(53)の事業についても、補助資料の 53-2 に示された学力向上交流会での研究校の発表資料である「学力・学習状況」検証事業研究記録だけで評価するのは難しい。
- ・次年度も引き続き、事業を継続し、検証方法を模索していただきたいと考える。